

授業の構築において、本時で目指す姿を想定した上で言語活動に取り組み、その達成状況を見取るとともに、目的や場面、状況などに応じた支援や全体の中での中間評価を行うことが肝要です。このことが、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、深い学びを実現することにつながります。

## 言語活動の流れの指導例

### ①目的や場面、状況などを理解する。



僕は野球場があればいいと思うなあ。プロ野球の試合を見てみたいから。



本時の  
めあて

「夢のタウンマップ」を作るために、町にあったらよいと思う場所を考え、オリジナルタウンで道案内をしよう。(小学校第5学年)

### ②伝えたいことを表現するための言語材料を、既習事項の中から選んだり、組み合わせたりして考え、やり取りを行う。



Ken

What do you want for your town?

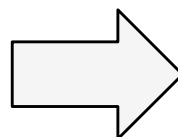
I want a baseball stadium.

Where is the baseball stadium?



Yumi

Turn right. You can see it on your left.



中間評価  
の場面



見・考

Ken, do you like baseball?

Yes! I like baseball very much.

Yumi, what do you like?

Uh, I like animals. Very cute!

そうか、理由などを伝え合うのもいいな。



HRT



ALT



見・考

見・考は、児童が見方・考え方を働かせている場面の例

### ③中間評価の場面で気付いたことや考えたことなどを基に、内容を整理・吟味した上で、再度やり取りを行う。



見・考

I want a baseball stadium. I like baseball. I want to watch *puro-yakyu*. How about you?

I like animals very much. Very cute! I want a zoo in my town. Go straight. Turn left.

You can see it on your right. Do you like animals, Ken?



見・考

与えられた話型による対話に終始させるのではなく、目的や場面、状況などに応じた言語活動に取り組ませることを通して得られた気づきや学びを共有し、身に付けさせたい資質・能力の育成を目指しましょう。